

11月26日のウクライナ情報

安齋育郎

●ラブロフ外相によるイズベスチヤ紙への寄稿記事: 欧米政治の手法としての『演出』について(2022年7月18日)

NATO インストラクターと MLRS(多連装ロケットシステム)の砲手がすでにウクライナ軍と民族主義者の大隊の行動を現場で直接指示している。

◇ 西側とウクライナ政府は、ブチャの挑発による死亡者の氏名が特定されたのかという基本的質問にも、いまだ回答していない。

◇ 米国は、ウクライナの生物研究所が平和的性質のものだと示す証拠を有していない。

◇ ソ連崩壊後、独立国となったウクライナやその他の旧ソ連諸国に居住するロシア人について、良好な関係を築いてその権利と利益に配慮すると語った西側の言葉は、単なる芝居に過ぎなかった。

◇ 現在西側が面倒を見ているウクライナ、モルドバをはじめとする国々は、西側のゲームの端役となるさだめにある。

◇ 西側集団は、幻想の世界から地上の現世に戻るべきだ。いくら芝居を続けても、功を奏することはない。そろそろいかさまのルールではなく、国際法に基づき正々堂々とプレーしてもいい頃だ。

◇ 国連憲章と世界秩序全体の基本である国家主権の平等への尊重に基づき多極的世界を形成する、客観的な歴史プロセスは何ものを以ても代えられない。このことを、誰もが少しでも早く気づくことが望ましい。

※安齋注: 全文を読みたい人は次の英語の記事をご覧ください。

<https://mid.ru/ru/foreign-policy/news/1822333/?lang=en>



●欧州が「戦争で利益を得ている米国」を非難(2022年11月25日)

<https://www.politico.eu/article/vladimir-putin-war-europe-ukraine-gas-inflation-reduction-act-ira-joe-biden-rift-west-eu-accuses-us-of-profiting-from-war/>

ウクライナに侵攻してから 9 か月後、ウラジーミル・プーチンは西側諸国を分断し始めている。

ヨーロッパの高官はジョー・バイデン政権に激怒しており、EU 諸国が苦しむ一方で、アメリカ人が戦争で大金を稼いでいると非難している。

「事実、冷静に見れば、この戦争で最も利益を得ている国は米国だ。なぜなら、彼らはより多くのガスをより高い価格で販売し、より多くの武器を販売しているからである」と、ある高官は POLITICO に語った。

欧州の産業を破壊する恐れのある米国の補助金に対する欧州内の怒りの高まりに続いて、他の場

所の当局者、外交官、および閣僚によって公的および非公式に支持された爆発的なコメント。クレムリンは、西側同盟国の状況を歓迎する可能性が高い。

「私たちは本当に歴史的な分岐点に立っている」と EU 高官は述べ、米国の補助金と高エネルギー価格による貿易混乱の二重の打撃は、世論が戦争遂行と大西洋同盟の両方に反対するリスクがあると主張した。「アメリカは、多くの EU 加盟国で世論が変化していることを認識する必要があります。」

EU の首席外交官であるジョセップ・ボレルは、ワシントンにヨーロッパの懸念に対応するよう求めた。「私たちの友人であるアメリカ人は、私たちに経済的影響を与える決定を下します」と彼は POLITICO とのインタビューで述べました。

ここ数週間の最大の緊張点は、バイデンのグリーン補助金と税であり、EU から不当に貿易を遠ざけ、ヨーロッパの産業を破壊する恐れがあると EU は主張している。ヨーロッパからの正式な反対にもかかわらず、ワシントンはこれまでのところ、引き下がる気配を見せていません。

同時に、プーチン大統領のウクライナ侵攻によって引き起こされた混乱は、欧州経済を不況に陥れ、インフレが急上昇し、エネルギー供給の壊滅的な逼迫がこの冬の停電と配給を脅かしています。

ロシアのエネルギーへの依存を減らそうとして、EU 諸国は代わりに米国からのガスに目を向けていますが、ヨーロッパ人が支払う価格は、アメリカの同じ燃料費のほぼ 4 倍です。また、ウクライナに武器を送った後、ヨーロッパの軍隊が不足しているため、アメリカ製の軍事キットの注文が急増する可能性があります。



●ガルージン駐日ロシア大使の感懐(2022 年 11 月 11 日)

ガルージン駐日 ロシア大使は 11 月 11 日、東京都内で行った会見で大使としての仕事について振り返った中で、露日関係は日本側の非友好的な行動が原因で大きく悪化したと述べた。

同氏は今月で駐日大使を離任。今日が任期最後の会見となった。



●冬の戦車

ロシア軍は、冬にはウクライナ軍より優位に立っていると兵士は言った。

「冬には、履帯(キャタピラ)のグリップが特別な役割を果たす。RF 軍の戦車はトラックが広くエンジン出力が大きいいためクロスカントリー能力が高く、ウクライナ軍よりもはるかに戦闘において効率的である」と彼は言った。



重要

●2014年ユーロ・マイダン(ウクライナでのクーデター)の真実

<https://www.youtube.com/watch?v=nUzXxGPvwRk>

※ツイッターのコメント:冷戦の終結によりヨーロッパに平和が訪れ、軍隊は動員を停止し始めた。米帝はこの信頼を利用し、ロシアとの約束を無視して NATO を拡大し、旧ワルシャワ条約機構諸国や旧ソビエト共和国をも吸収し、旧ソ連邦の広大なウクライナ共和国の征服にも力を注いだ。ロシアは、ウクライナは生産性が低く、腐敗しており、厄介な国だと考えていたので、1991年に独立させた。アメリカ帝国は、ウクライナを NATO に吸収しようと画策し、ウクライナ軍を強化するために軍隊を送り込み、アメリカ軍基地の建設も計画した。アメリカはウクライナでクーデターを起こし、流血の戦闘と経済の大混乱を招いた。



●地元市民がキエフの店で空の棚を撮影した動画を投稿。「パンがない」(2022年11月25日)

<https://twitter.com/tobimono2/status/1595970999249686529?t=qJi2mqD0u6Z-hInOST06Ow&s=09>



●ウクライナのインフラ相の電力系統復旧の見通し(2022年11月25日)

ウクライナの損傷した電力系統の復旧には、数億円の資金が必要だと同国のインフラ相が発言をした。

ウクライナは、この目的のためにすでに国の予算から割り当てられている金に加えて数億ドルの外部支援が必要になるだろうと述べたと Financial Times は報じている



全土停電中

※安齋注:数億円で済むとは到底思われません。必要とする外部資金が「数億ドル」とあることにも、それが表れています。私は、ウクライナの停電や経済混乱や戦争被害を喜んでいる訳ではありません。早くこういう事態に終止符を打つためにも和平交渉が不可欠ですが、戦争の原因を作った側(アメリカとウクライナ)が、戦争が起きた理由に真摯に対応しない限り、ロシアは「ウクライナの非軍事化」と「ウクライナの非ナチ化」という旗印に照らして異を唱え、和平交渉は決裂しかねないでしょう。

●ダグラス・マクレガーの戦況の見立て(2022年11月23日)

元米陸軍大佐のダグラス・マクレガーは、ウクライナ国家は今後数週間でロシア軍によって「終わらせられる」だろうと述べている。

<https://twitter.com/thatdayin1992/status/1595397647703097344?t=GCJPQqC2wlPqSp2HH3ARg&s=09>

※安齋注:もちろん、こうした見立てには「間違っている」などのコメントがあります。まあ、見ましょう。



●電気・ガス・水道をロシアに破壊されたウクライナは冬を越せるのか。ウクライナ国民は停戦を求めよ(2022年11月24日)

<https://ameblo.jp/docomo1923/entry-12776158696.html>

※投稿者のコメント(一部):もうそんなことはいってられないと反政府運動が徐々に広がっているようです。オデッサのデモなど。この動きは厳冬を前にして一斉に拡大することでしょう。

そのとき、ウクライナ・ネオナチ保安部隊の銃弾は一斉にデモ隊に発射されるはずですが、それは悲劇ですが、そうでもならないとウクライナ国民は覚醒しないでしょう。まずは停戦交渉をすべきなのです。国民は独立を叫ぶより停戦を叫ぶべきなのです。今が最後のチャンスです。戦闘で勝利を決めるべきではないのです。まずは停戦です。

ついでながら、ロシア軍のミサイルは発電所自体を攻撃していないようです。攻撃は主に変電所等。破壊された発電所を再度立ち上げるには相当時間がかかることでしょう。恐らく戦争終了後に早期に生活インフラを復旧させるために、ロシアとして発電所は攻撃対象として選ばなかったのが理由だと思っています。

●ポーランドにミサイル着弾で世界が慌てる。しかしバイデンが初めてまともな反応、ゼレンスキーは苦虫?(2022年11月16日)

<https://ameblo.jp/docomo1923/entry-12774854615.html>

※以下は投稿者の意見です。危ない言葉は安斎の責任で〇〇〇〇と表現しました。

ポーランド東部に2発のミサイルが着弾し、2名が死亡したというニュースが朝から世界を騒がせた。私はこれを聞いて「ああ、またロシアに濡れ衣を着せるために、ウクライナがポーランドにミサイルをぶっ放したな。ザポリジャ原発砲撃と同じことをまたやらかしたか」と「普通に」思ったのであった。

しかし、これにポーランドはどう出るか。ロシアが撃ち込んだとウクライナの嘘を本気で信じ込むと偉いことになるなあ。ポーランドもロシアに報復ミサイルを撃ち込まないと様にならないし、ロシアはやっていない攻撃で仕返しをされたなら、当然ポーランド国内にミサイルを撃ち込んで収拾がつかなくなり、ハタをすると本当の第三次世界大戦に拡大するかもなあ。ゼレンスキーは、してやったりとひとりほくそ笑むかもしれないなあ。とんでもないことをゼレンスキーはやる、ホントに許せん〇〇〇〇大統領やなあ、と。

しかし、アメリカは一步踏みとどまった。

バイデンが「軌道を見ると、ミサイルがロシアから発射された可能性は低い」と早々と述べたのだ。これで世界戦争危機の確率はかなり低くなった。ゼレンスキーは怒り狂っているだろう、と。

しかし、報道では「ロシア製のミサイルがポーランドに着弾した」といちいち「ロシア製」という言葉を頭に付けて伝える。これはマスコミ全体がミサイルを発射したのはロシアだと印象付けたい意図がありありだ。

もちろん、ウクライナのミサイルは、S-300 防空システム用のロケットを含むソ連製のミサイルの在庫を今も維持しているというから、「ロシア製のミサイル」という言い方は間違いではないが、このピリピリした状況でまだ誰がなぜ撃ち込んだかわからないのに、わざわざ「ロシア製」という言葉を使う必要などないわけだが、如何にマスコミが常軌を逸して、プーチン嫌い、バイデン大好き、戦争も好き、ロシア軍兵士が殺されるのが好き、ウクライナの嘘が大好き、頭のおかしいゼレンスキーが大好きにのめりこんでいるかよく分かる。

このミサイル着弾の「可能性」として幾つか考えられるが、NHK やテレ朝などマスコミは

- ① ロシア軍が誤射、
- ② ロシア軍ミサイルの迎撃に失敗したウクライナ軍の対空ミサイルの流れ弾が着弾
- ③ ロシア軍が故意にポーランド領内を攻撃

の3つの可能性を挙げていたが、もう一つあるはずなのに、皆スルーしている。

第4の可能性は、「ウクライナ軍が故意にポーランド領内を攻撃した」というものだ。

これはまさにザポリジャ原発砲撃やクラマトルスク駅(4月)にウクライナ軍がミサイルを撃ち込んで自国民を殺害したにも関わらず、ロシア軍に濡れ衣を負わせたことの再来だ。

つまり、今までのウクライナ軍の嘘を見ていれば、今回のポーランドへのミサイル着弾もウクライナ軍の仕業と考える方が納得性があるのだ。

だから、ゼレンスキーはこの報道を受けて、すぐさまロシア軍によるミサイル攻撃だと非難したではないか。ゼレンスキーはウクライナ軍が撃ち込んで NATO を戦争に巻き込もうという魂胆だ。

しかし私は今回の事件はゼレンスキーの意図的攻撃ではないとみている。恐らく、ロシア軍ミサイル迎撃に失敗したミサイルがポーランド領内まで飛んでいってしまったのではないかと考えている。

なぜなら、もしゼレンスキーの意図的なものなら、英米の諜報機関と結託してやったに違いないが、今回は早々とバイデンがロシア軍のミサイルではない可能性を指摘したからである。

もしいつものようにロシアを貶める謀略なら、こんなコメントはしないし、全部嘘で固めた報道をさせれば、嘘も真実になるのである。

しかし、今回はアメリカはロシア軍のせいにしなかった。それは米国が絡んでいない証拠である。

といっても、ウクライナ軍独自にポーランドに撃ち込んだ可能性は否定できないが。

如何に戦争好きなアメリカでも世界戦争にまで発展させることはやりたくないということがこれで分かった。

これまでのウクライナの嘘、ロシアのせいにする嘘、虐殺だ、拷問だ、レイプだ、砲撃だ、発電所破壊だ等々のロシアのせいにする嘘は、いくらやっても、言っても世界戦争に拡大する心配はなかった。

しかし、今回のポーランドへのミサイル着弾を、ゼレンスキーの言いなりにロシアのせいだとするとウクライナ戦争はウクライナ対ロシアでなく、NATO 対ロシアの戦争、つまりアメリカ対ロシアの戦争になってしまうではないか。

そういう意味で、今回初めてバイデンはいい仕事をしたのである。といっても原稿を読んだに過ぎないが。

元々アメリカは、ウクライナ戦争の泥沼化、アフガン化が目的だった。つまり戦争をウクライナ国内に限定していつまでも戦争を続けて、ロシアを疲弊させることが目的だった。その割に疲弊したのは西

側諸国だったが。戦争は地域的に限定されねばならなかったから、NATO 対ロシアという直接戦争などもっての他だったのだ。

しかし、ゼレンスキーはちがう。ウクライナ国内の戦争からヨーロッパ全体の戦争に巻き込みたくてしかたがなかった。だから、NATO に早く加盟して核爆弾を保有してロシア占領地に使いたいし、そのためにも全面的かつ直接的に NATO が先頭に参加してほしいからだったのである。

そういう意味では、今回の件でゼレンスキーの意図が達成されなかったから、かなり怒っているだろうことが想像できる。

アメリカは一步とどまったのだが、それは世界戦争に発展することを嫌がっただけで、ウクライナ戦争の泥沼化、アフガン化は目的とするところなのだから、戦闘自体はこれからもずっとずっと続くのである。またもや中間選挙をバイデン民主党が盗んだから、和平は更に遠のいたのである。

しかしゼレンスキーは諦めない。また何かを仕掛けてくるに違いない。



●元ウクライナ外交官、オルガ・スハレフスカヤ著「ウクライナにおける 100 年にわたる政治的暴力は、今日の残虐行為とどのように結びついているのか」(2022年11月25日)

要約: 民族主義者の大隊員による犯罪は、長い間当局に「気づかれない」ままだったが、国際人権団体が最もひどい事例について叫び始めたとき、彼らの残虐行為に関するいくつかの事実がようやく法廷に到達した。

※安齋注: 下の URL をクリックすると、前日本語訳の文章があります。

<http://eritokyo.jp/independent/Ukraine-war-situation-aow2010.html>



●ロシア軍が撤退するとウクライナ軍は必ず住民を常習的に虐殺する！ヘルソンでも百人以上が犠牲に(2022年11月18日)

※以下は投稿者のコメントです。

ウクライナ軍の戦争犯罪つまり兵士でないウクライナ住民(主に親露派)の虐殺は常習化しているようだ。目的はふたつ。ひとつは、ロシア軍に虐殺の罪をかぶせること。

二つ目は親露派住民を見せしめに虐殺し他の住民を脅すことだ。ブチャの虐殺はまさにそのように行われた。しかし、これは戦争初期の犯罪だったので、ウクライナ治安部隊の準備が整わず、ウクライナ軍による虐殺の証拠がいくつも残ってしまった。稚拙な戦争犯罪行為であった。

しかし、西側諸国とマスコミがその稚拙な虐殺を上手く隠ぺいしてくれたから、ウクライナとしては、用意周到に虐殺をする必要がなくなった。マスコミはそういう意味で愚かな共犯者だ。

そしてその成功に味を占めて、ロシア軍の撤退又は占領地の奪還後は、必ず住民の虐殺をすることにした。それが不可能な場合は、墓を暴いてまで(イジウム虐殺)ロシア軍の虐殺を捏造した。

そんな狂ったエネルギーはどこから湧いてくるのか。ゼレンスキー以下ウクライナ・ネオナチ政権が狂っているとしか言えないではないか。

今回はヘルソン地区から早目にロシア軍が撤退したから、ウクライナ側の準備不足で住民虐殺をロシア軍のせいに出せなかった。

しかし、悪魔のゼレンスキーは住民虐殺予告を堂々と世界に発信した。もちろんロシア軍の犯行だと言いながら。

ゼレンスキー大統領(13日公開のSNS)

「捜査官はすでに 400 件以上のロシアの戦争犯罪を記録しており、民間人と軍人の遺体が発見されている。我々は殺人犯を1人足り残らず見つけ出し、必ず裁きにかける」。

このゼレンスキーの言葉には嘘が二つ含まれている。

ひとつは、この時点ではまだ一人の「民間人と軍人の遺体が発見されて」いない。だから公表していない。虐殺があったなら、当然世界に「ロシア軍の残虐行為」として発表するはずだが、そうしていない。

なぜなら、いま虐殺死体の準備中だからだ。準備とは親露派住民の虐殺死体の準備のことだ。虐殺の進行形！

それは昨日のブログ記事を見ればわかる。

「追記 これがウクライナの真実」参照

「ヘルソンの電柱に両手を縛られた 2 人の協力者とされる人物を見る地元の人々」の写真だ。この人達はその後ロシア軍による虐殺死体として道路に放置されるだろう。



そして URA.RU(ロシアの通信社)の特派員がニュースとして伝えている。(西側は無視するに決まっているが)。

「ヘルソンでは 39 人の親ロシア派活動家が射殺された。これは、URA.RU(ロシアの通信社)の特派員が同地

域の緊急サービス担当者の話を引用して報じたもの。

情報源によると、39人がウクライナ治安部隊の懲罰的行為の犠牲となったとのことだ。また、ロシアとの協力が疑われる74人が、行き先不明で連行された。

「殺された人々の遺体は親族に引き渡されず、ロシアの戦争犯罪を証言するとされる演出に使われる予定だ」と、救急隊は URA.RU に語った。

彼らは、ウクライナの民族主義者が空き家に侵入し、器物を破損していることを指摘した。捜索には写真やビデオを添付し、これらの資料を所有者に送り威嚇することを目的としている。」

このニュースからわかることは、ウクライナ治安部隊は、ヘルソン住民のうち、39人の親ロシア派活動家を射殺し、ロシア協力者として74人が行方不明つまり殺害したということだ。合計113人+2人(電柱に両手を縛られた2人の協力者)で、115人が今ロシア軍が虐殺したように見せかける準備をウクライナ治安部隊はしていることだろう。

もうすぐ「ヘルソンの虐殺」が発表されるに違いない。そしていつもの「ロシア非難の大合唱」！それでウクライナの撃ち込んだミサイルは有耶無耶だ。

ゼレンスキーの嘘の二つ目は、「我々は殺人犯を1人足り残らず見つけ出し、必ず裁きにかける」という「裁き」という意味だ。

西側諸国の人間はこの「裁きにかける」とは、法的な裁きつまり裁判にかけるという意味として捉えるだろう。

ゼレンスキーはそのように誤解させて曖昧に述べている訳だが、実はゼレンスキーのいう「裁き」とは、親露派又は協力者は全員「処刑する」という意味だ。ヒトラーより恐ろしいではないか。

兵士でないものを裁判もせず処刑するなど、戦争犯罪そのものなのだが、侵略者ロシアには通用させなくてもいいらしい。

そしてマスコミも日本の識者もそういう行為に批判・非難しないのは、ゼレンスキー同様、侵略者ロシアに味方する者は兵士であれ市民であれ、処刑されて当然だと思っているのではないか。

日本のウクライナ応援団に問いたい。親露派になら何やっても処刑しても虐殺しても許されるのか。それは殺人だろう！ウクライナ応援団よ、どう説明するのか？

ロシア軍はヘルソン撤退の際、ヘルソン住民の多くをドニエプル川東岸に移させたが、それはウクライナ軍の虐殺を防ぐためだった。多くのヘルソン住民がウクライナ軍の虐殺から逃れさせるためである。

しかし、ウクライナ大好き人間にかかると、この事実は真逆なものになる。

いつものようにウクライナというアホになる「農と島のありんくりん」ブログを見てみよう。

「また、ロシア軍は「住民保護」の名目で、ヘルソン市を含むドニエプル川西岸地域の住民の実に約半数の10万人超を、自らの支配地域に拉致したままになっています。

このヘルソンからの「避難民」の行く先は想像できます。

まず間違いなく、最初に彼らが送りこまれたのは選別キャンプ(フィルターキャンプ)のはずです。マウリポリでは「人道回廊」の先に待っていたのが、4万人以上が強制的に收容された選別キャンプでした。フィルターキャンプで、ロシアは住民を「いい住民」すなわちロシアに忠誠を誓う者と、「悪い住民」すなわちロシアに抵抗す者に仕分けします。その方法は拷問、殴打、そして女性に対しては強姦です。反吐が出そうですが、これが民族浄化です。」(引用終り)

反吐が出そうなのは、お前の悪意ある間違いだ。民族浄化はウクライナのネオナチのお家芸ではなかったか。